

2024年7月28日 主日礼拝 聖霊降臨節 第11主日

説教題：「**思いがけない時に**」

聖書箇所：**ルカによる福音書12章34 - 48節**（132頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 49 交読詩編：90編13 - 17節（101頁）

讚美歌：83/92（主よ、私たちの主よ）/200（小さいひつじが）/579（主を仰ぎ見れば）/27

「今週の聖句」〔あなたがたも用意しておきなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。〕

（ルカ伝12：40）

「牧師室の窓」 「新しき人物紙幣稍々(やや)に慣(な)れ我が残日の友となるらむ」

「パリ五輪百年を経て開かれしキーウ・ガザでの流血の中」

(1)皆様おはようございます。今日の聖書箇所は小さな見出しで（小見出しと言いますが）「目を覚ましている僕(しもべ)」と書かれている箇所です。イエス様の譬え話が続きます。前回に申し上げました様にイエス様の譬え話は場面設定あるいは舞台装置が優れています。先週は東京銀座4丁目にある歌舞伎座や歌舞伎座タワー、そしてアメリカ大統領選挙も舞台装置であると申し上げました。この歌舞伎座の出し物とアメリカ大統領選挙の今後の動向とに共通しているものがありますね。それは何でしょうか。一言で言えば、「言葉の演出と行動力」であると思います。裏返して言えば「何かが心に響くこと」ではないでしょうか。この数日間で、アメリカ大統領選挙候補見込み者がガラリと変わりました。今後の状況に注目して参りましょう。

(2)早速、今日の聖書箇所を見てみましょう。今日の聖書箇所は2部構成、歌舞伎で言えば2幕構成です。第1部は35節～40節です。続く41節はペトロが幕あいてイエス様に質問をすると、第2部に進んでいくという構成になっています。

35節36節を見てみましょう。〔(12:35)「腰に帯を締め、ともし火をともしいなさい。 /

(12:36)主人が婚宴から帰って来て戸をたたくとき、すぐに開けようと待っている人のようにして

いなさい。〕登場人物はある家の主人と奉公人たちです（37節には「僕(しもべ)たち」と書かれています）。

その主人がどうやら遠い所で行なわれていた結婚式の祝宴に出席していたのです。旧約聖書の創世記29章28節にはヤコブとラケルの結婚式のことを、士師記14章12節にはサムソンの結婚式のことを書かれており、婚礼の祝いは1週間続くと記されています。勿論、財力のある家であれば為し得る祝宴でしょう。とは言うものの、人口の少ない集団社会にあっては、また、娯楽の少ない社会にあっては、婚礼の祝いは地域社会に人々にとっては個人的なお祝いだけではなく、地域社会の共有催し事・共同事業であったと推測されます。…現代の日本の社会では地域社会の共同事業という意識が少なくなっているように思われます。地域の共同事業（別の言葉で言えば、公共の財産）として有るのは、町内会でのゴミ出し当番や地域なり商店街なりでのお祭りぐらいではないでしょうか。地元の神社やお寺も地域の公共財産であり、教会も公共財産であります。私は教会に到着しましたら、玄関の外で暫く立ち止まり、お顔を合わせた近所の方々に挨拶をしています。多少の会話が地域の共有財産になればとの思いからです。どんなに小さな会話であっても、会話とは相手の存在を認めることに他なりません。日本の社会では、音声による会話が急速に少なくなっている実態があります。一方では、LINEなどによる電子文字の会話が増えています。この様な状況の中で、人々の生活から会話や対話が急速に減少しつつあります。教会はどの様に活動すべきでしょうか。興味深い問題です。

(3)話を元に戻して、婚礼の祝宴からその主人がいつ帰ってくるのかが不明なのです。日のある日中に帰ってくるとは限りません。「腰に帯を締め」とは服装を整えてという意味であり、「ともし火をともし」とは、夜間の帰宅、お帰りであってもという意味です。つまり、どの様な時にお

帰りになられても出迎えが出来る様にしておきなさいと、この譬え話は始まっています。この第1幕のポイントは「ご主人様の突然のご帰宅に対する普段からの準備」です。では、続く、37節の言葉は何と言っているのでしょうか。37節〔(12:37)主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はつきり言うておくが、主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。〕この37節の後半に書かれている「主人は帯を締めて、この僕たちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる」とは、主人が服装を整えて、僕たちの為に食事の給仕をすると言っているのです。何だか変ですね。食卓の席に着くのはご主人様であり、食事の給仕をするのは召し使いたちです。

併し、ここでは主人と僕たちの状況が逆転しているのです。しかも、39節には〔(12:39)このことをわきまえていなさい〕と念押しをしているのです。イエス様の譬え話は聞いているものには直ぐに理解が出来ないことがあります。そして、次の4つの言葉が気に掛かりませんか。それは「腰に帯を締め」「ともし火をともし」「目を覚まして」「用意して」の4つです。この4つの言葉に共通しているのは「待つ、待ち望む」ことに他なりません。何を待ち望んでいるのでしょうか。そうです、「家の主人」の帰りをです。

(4)ここでイエス様はうっかりと口を滑らせてしまいました。40節の後半です、〔(12:40)…人の子は思いがけない時に来るからである〕ここには「家の主人」ではなく「人の子」と書かれています。「人の子」とは誰でしょうか。「人の子」とは、旧約聖書では「人間(神が作られた人間)」という意味で使われています。詩編8編5節に〔(詩編8:5)そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。〕この8編5節と全く同じ表現が詩編144編に書かれています。両方ともダビデの詩です。先週の「交わり礼拝」ではサムエル記下6章を皆様と共に学びました。主の箱を牛車で運ぶ途中で事故が起きて、ダビデは3か月間主の箱を運ぶのをやめて、静かに深く考えました。サムエル記下6章の重要箇所です。ダビデがどの様に考えたのが詩編の8編と144編を読むと成程と思われることでしょう。詩編は私たちの日常生活への応用範囲が広いことがここからも体験されることと思います。なお、「人の子」で忘れてはならないのは、エゼキエル書にはなんと94回も書かれています。何故なのかをこの夏のお楽しみにされては如何でしょうか。

…話を進めます。新約聖書では「人の子」とは、イエス様ご自身のことを示しています。ルカ福音書では29回も、マタイ福音書では33回も出てきます。ペトロは人の子とはイエス様ご自身のことを指していると、薄々理解するようになっていました。従って、今日の聖書箇所の40節にイエス様が〔(12:40)あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである〕と言われた時に、ペトロは、おや、おかしいぞと気が付いて、41節〔(12:41)…主よ、このたとえはわたしたちのために話しておられるのですか。それとも、みんなのためですか〕と聞き返したと考えられます。

(5)そして、本日の聖書箇所の中の第2幕が始まるのです。42節には〔(12:42)主は言われた。「主人が召し使いたちの上を立てて、時間どおりに食べ物を分配させることにした忠実で賢い管理人は、いったいだれであろうか。」〕ここには「忠実で賢い管理人」と翻訳されています。以前の口語訳聖書には「忠実な思慮深い家令」と書かれています。それまでに書かれていた「僕(しもべ)」とは、ギリシア語でデューロス、奴隷と言う意味が42節では「管理人」となっています。「管理人」とは、ギリシア語でオイコノモス、管理人・番頭・会計担当者」という意味です。このオイコノモスと言うギリシア語が英語のeconomy(節約や経済という意味)になり、飛行機旅行でのエコノミークラスやお徳用サイズと言う言葉へと変化しました。この「管理人」という言葉は英語の翻訳ではstewardと言います。現在では殆ど使われませんが、飛行機の中でおもてなしをする乗

務員をスチュワードと呼んでいました。寧ろ、近年では経済用語でstewardship受託責任という言葉が重要視されています。今日の聖書の言葉どおり「忠実で賢い管理人、或いは、忠実な思慮深い家令」です。皆様は「忠実で賢い」という意味がお分かりであると思いますが、別の言葉で言えば「約束を守る、自分勝手な判断をしない」という意味です。主から与えられた責任、それは教会であっても、家庭内であっても、職場であっても、責任を背負いつつ、身勝手な自己判断ではない行動です。現在NHKテレビ朝の連続テレビ小説で「虎に翼」を放送しています。日本で最初の女性裁判官の半生をドラマ化しています。日本国憲法に関連して申し上げれば、憲法第12条には次のように書かれています。「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならない…、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。」ここに書かれている「不断の努力によって」とは本日の聖句の「忠実で賢い管理人」に通じるものがありますね。

(6)話は変わり、時は移り、イエス様が十字架の刑で亡くなり、復活され、天に昇られ、何をしたら良いのかと右往左往していた弟子たちに聖霊が降臨し、初代キリスト教会が産声をあげました。

この生まれたばかりの教会をどの様に運営すればよいのだろうか。信仰を共にする人々とどの様に歩んでゆけば良いのだろうかと悩んでいた時に、ベトロを始めとする弟子たちは、イエス様の思い出話が次々に浮かんできたのです。そして、今日の聖書箇所の場合の40節です。〔(12:40)あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。〕加えて、42節の「忠実で賢い管理人」であることでした。…現代に生きる私たちも、主イエス・キリストの再臨を待ち、天の国に招かれることを確信しています。その「思いがけない時」を迎える時を待ち望みつつ、「忠実で賢い管理人」でありたいと願っています。

(7)今日の聖書箇所のすぐ前の箇所に、同じ12章の22節には「思い悩むな」と書かれています。私たちの人生は思い悩むことの連続ではありますが、31節には「ただ、神の国を求めなさい」と書かれています。これは決して気休めの言葉ではありません。そのことを初代教会のクリスチャンたちが、困難な時代の中で、「思いがけない時に」来られるキリストの再臨を確信したのです。12章の32節に〔(12:32)小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる〕と言われたイエス様の言葉を思い出し、きょう、そして、あしたへの一歩を踏み出す勇気を与えられたのです。遙か2千年の時を隔てた私たちにも生きて行く勇気を与えられるのです。

・・・お祈りいたします。